

## 第50回 法律、規則は破るもの？

IT生

- その① 法律、規則は破るもの
- その② 決断は1分以内にする
- その③ 平等を追い求めない、目の前の状況にいち早く対応する

この「災害対応3か条」は、岡山県の総社市長が編み出したものだ。

同市では、東日本大震災以降、全国各地の災害現場に職員を派遣し、市長自らも足を運んでいる。その経験から3か条を考えたという。昨年7月には、自らが西日本豪雨で被災し、はからずも3か条の重要性を再認識したという。

現代日本人の特性として、すべての価値観は「平常時」の域をでない。善悪の議論を延々と続け、この局面において、社会にとって何が必要かという本質的な議論にいたらない。韓国の悪口はいえたものでないのである。社会にとって何が必要かという疑問が生じた時は、もはや「非常時」なのである。



総社市長のツイッターをとりあげた記事。自ら被災地ながら隣の市の被災地への救援を始めている

そのことを総社市長はいつている。

もちろん物事を変えようとする、どこかで齟齬が生じる。齟齬が生じたら素早く微調整していけばよいだけの話だ。状況が状況を生み出す、その都度、バランスに配慮し、調整していく、そうした動的な対処能力に、現代日本人は著しく欠けている。激変する国際環境するなかでの自衛隊にかかわる憲法論議などまさにその典型だ。

総社市長の3か条はまだまだ他の自治体に広がるとは思えない。しかし、阪神大震災から間もなく25年たつが、そのなかで育まれた、新しい文化なのだとはいえそう。

(令和元年9月)